

東京オリンピック・パラリンピックに向けた 全国的な取組について

令和元（2019）年6月4日
栃木県 総合政策部 総合政策課



目次

(1) 東京2020オリンピック聖火リレー	1
(2) 東京2020パラリンピック聖火リレー	3
(3) 東京2020参画プログラム（東京2020NIPPONフェスティバル）	4
(4) 東京2020教育プログラム	7
(5) 東京2020大会マスコット	10
(6) 東京2020大会ボランティア	12
(7) カウントダウンイベント	13
(8) 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト	14

1 東京2020オリンピック聖火リレー

① コンセプトについて

➤ 「Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう」

支えあい、認め合い、高めあう心でつなぐ聖火の光が、新しい時代の日の出となり、人々に希望の道を照らし出します。

② スケジュールについて

- ・ 3月12日（木） ギリシャ古代オリンピア市聖火採火式
- ・ 3月12日（木）～19日（木） ギリシャ国内聖火リレー
- ・ 3月19日（木） ギリシャアテネ市聖火引継式
- ・ 3月20日（金） 航空自衛隊松島基地（宮城県）に到着
- ・ 3月20日（金）～25日（水） 東北3県（宮城・岩手・福島）にて「復興の火」展示
- ・ 3月26日（木） 福島県ナショナルトレーニングセンターJビレッジからグランドスタート
- ・ 3月29日（日）～30日（月） 栃木県にて聖火リレー実施
- ・ 7月24日（金） 聖火リレー最終日・東京2020大会開幕

東京2020オリンピック聖火リレー栃木県実行委員会における協議経過

東京2020組織委員会からの要請により、昨年度「東京2020オリンピック聖火リレー栃木県実行委員会」が設置され、組織委員会に協力をし、ルート選定をはじめとした県内でのオリンピック聖火リレーの準備・実施を行うこととしている。これまでの経過については、以下のとおりとなります。

7月31日（火）第1回実行委員会：聖火リレーの概要についての説明等を行った。

10月15日（月）第2回実行委員会：市町から提出のあたりりルート案の提案を踏まえ関係機関等と調整し、県内のルート案を検討していくことを確認した。

12月21日（金）第3回実行委員会：県内25市町から提出されたルートに関する提案と組織委員会との調整を踏まえて作成した、聖火リレーの通過市町及びセレブレーション会場等の事務局案について説明をし、意見を伺った。

3月25日（月）第4回実行委員会：ルートの詳細案の検討状況を説明し、出発式、ミニセレブレーション等について今後検討を進めていくことを確認した。

5月30日（木）第5回実行委員会：ルートの詳細案の調整状況について説明を行った。

○なお、聖火リレーのルートなどの情報については、国際オリンピック委員会の承認を受け、正式に公表するまでは情報管理を徹底するよう求められております。

2 東京2020パラリンピック聖火リレー

1 コンセプトについて

➤ 「Share Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」

パラリンピックの聖火リレーを通じて、社会の中で誰かの希望や支えとなっている多様な光（人）が集まり、出会うことで、共生社会を照らす力としよう。

2 基本概要について（第4回県実行委員会で説明）

東京2020パラリンピック聖火リレーのうち、競技開催都県以外の43都道府県は、「聖火フェスティバル（①採火式、②聖火ビジット、③出立式で構成）に参加することができる。

※競技開催都県：東京都、静岡県、千葉県、埼玉県

3 パラリンピック聖火リレーの概要について

- ・ 8月13日（木）～17日（月） 聖火フェスティバル〔競技開催都県以外の43都道府県〕
- ・ 8月18日（火）～20日（木） 聖火フェスティバル〔競技開催都県3県〕
- ・ 8月21日（金） 集火式〔東京都〕 ※各地で採火された火を東京都で集火、パラリンピック聖火をつくる
- ・ 8月21日（金）～25日（火） 開催都市内聖火リレー〔東京都〕
- ・ 8月25日（火） 東京2020パラリンピック大会開会式

3 東京2020参画プログラム

○東京2020参画プログラムとは

東京2020大会の 大会ビジョンのもと、スポーツだけでなく、文化芸術や地域での世代を越えた活動、被災地への支援など、参加者自らが体験・行動し、未来につなぐプログラム。

組織委員会は、東京2020大会を一過性のイベントとするのではなく、出来るだけ多くの人
が参画し、あらゆる分野で東京2020大会がきっかけとなって社会が変わったと言われるよう
な大会を目指し、東京2020大会に向けたオリンピック・パラリンピックの機運醸成と、その
先のレガシー創出に向けて、8つのテーマでプログラムを展開している。



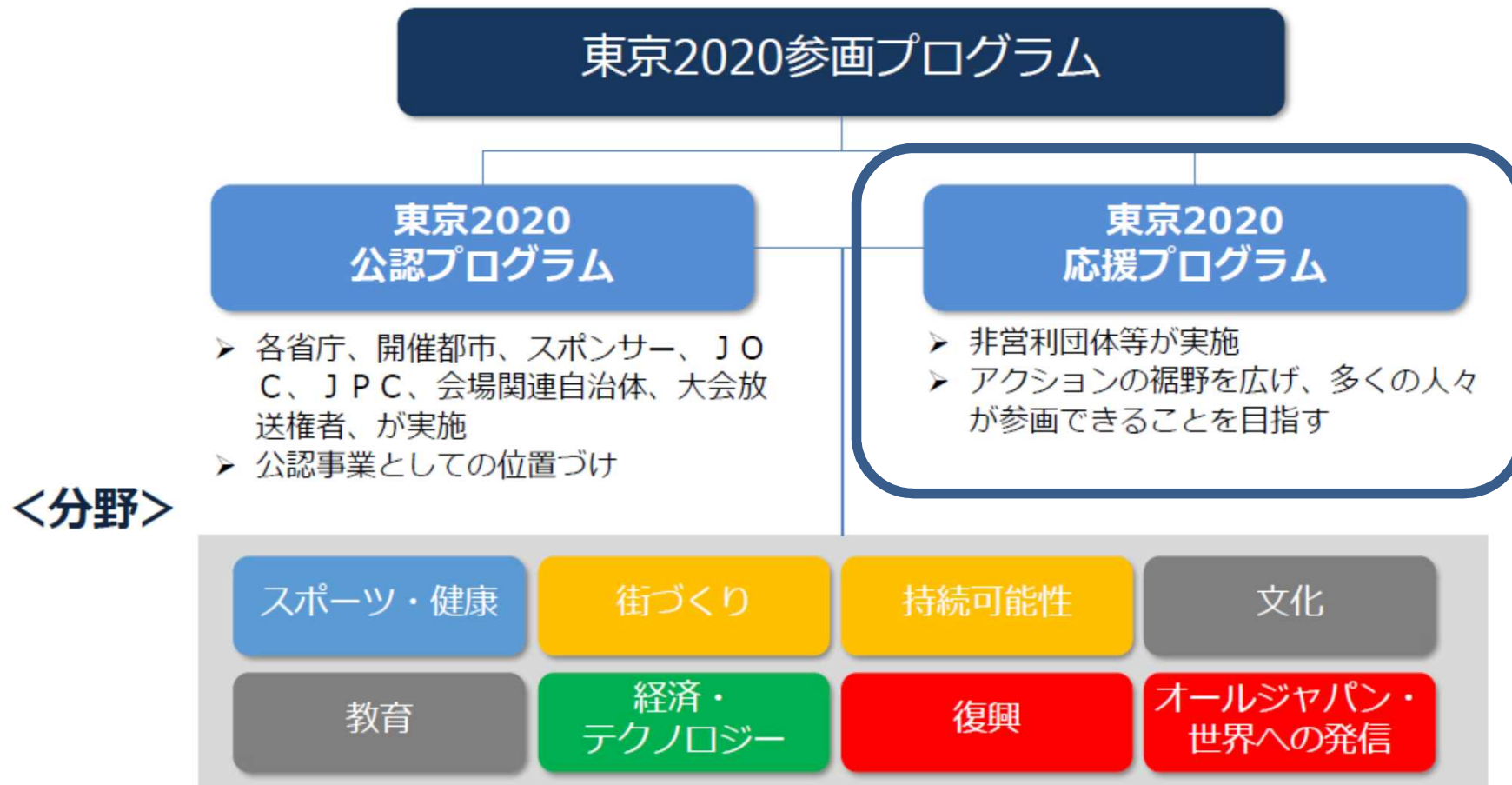
組織・団体のアクションへの認証・マーク付与

《公認マーク》

《応援マーク》



<2つのプログラム>



○栃木県内の公認プログラム実績一例（現在、51のプログラムが承認を受けています。）

- 伝えよう、日本の心プロジェクト 日本列島クリーン大作戦（2019.4～2020.2）
- 「手紙の書き方体験授業」支援（2019.4～2020.3）
- 障害者スポーツ選手等育成・強化事業（2017.8～2020.12）など

東京2020 NIPPONフェスティバル

「東京2020 NIPPONフェスティバル」は、東京2020参画プログラムの集大成として、世界の注目が日本・東京に集まる2020年4月頃から9月にかけて、国・自治体・文化団体等と連携し日本の文化・芸術の力を国内外に発信するプログラムを全国で展開する、東京2020大会の公式文化プログラム。

事業体系は、組織委員会が主催して行う4つの文化プログラムと自治体等が行う特別な文化プログラムを組織委員会が共催する共催文化プログラムから構成される。

日本の誇る文化を国内外に強く発信すると共に、共生社会の実現を目指して多様な人々の参加や交流を生み出すことや、文化・芸術活動を通して多くの人々が東京2020大会へ参加できる機会をつくり、大会に向け期待感を高めることを目的とする。

★組織委員会が主催する4つの文化プログラム

2020年4月頃 テーマ「東京2020大会に向けた祝祭感」

2020年7月頃 テーマ「参加と交流」

2020年8月頃 テーマ「共生社会の実現」

2020年5～7月 テーマ「東北振興」



4 東京2020教育プログラム

オリンピックは、世界中のアスリートが競い合う姿を目にすることを通じ、自己ベストを目指して努力することの尊さ、スポーツを通じた友情や尊敬を学ぶきっかけとなる。

また、様々な障がいのあるアスリートが創意工夫を凝らして限界に挑むパラリンピックは多様性を認め、誰もが個性や能力を発揮し活躍できる機会が与えられており、共生社会の重要性を学ぶきっかけとなる。

東京2020組織委員会では、子どもたちがオリンピック・パラリンピック大会そのものの価値やスポーツのもつ力を感じ学びとり、将来に向かって成長していくことを目的に「東京2020教育プログラム」（愛称：「ようい、ドン！」）を展開し、東京2020オリンピック・パラリンピックが、生涯にわたってかけがえのないような財産（レガシー）となる事業の推進を行っている。

このプログラムを通じて培っていけるレガシーは大きく分けて3つがある。（8頁参照）



オリンピック・パラリンピック教育が子どもたちに与えられるもの（レガシー）

自信と勇気

失敗を恐れず自ら行動を起こす人材、将来に向かって自信と勇気を兼ね備えた人材を育てていく

多様性の理解

障がいの有無、人種、言語等、様々な違いがあることを理解しつつ、共につながり、助け合い、支え合って生きていく力を身に付ける

主体的・積極的な社会参画

東京2020大会を契機に、国際社会や地域社会の活動に関心を持って、主体的、積極的に社会に参画できる人材を育てていく

○学校事業認証制度について

- 東京2020教育プログラムの一環としてオリンピック・パラリンピック教育に取り組む学校の教育事業を、東京2020組織委員会が東京2020オリンピック・パラリンピック教育実施校（愛称：「ようい、ドン！スクール」）として認証する制度
- 児童生徒がオリンピック・パラリンピック、スポーツの価値を学習する機会や、多様な国や文化に触れる機会、アスリートと交流できる機会等を促進し、2020年やその先に向けた、次代を担う人材を育てることを目的としている
- 47都道府県に所在する国公立・私立学校等の合計15,529校が認証（2019.5.1現在）
栃木県内の認証学校数 437校
※都道府県では10番目に多い学校数

○認証校に対する今後の取り組み予定（一部の学校に対する取り組み）

- オリンピック等アスリートの小中学校訪問
- 東京2020大会マスコットによる学校訪問 など

5 東京2020大会マスコット

○東京2020大会マスコットの選定について

➤東京2020大会マスコットは、過去大会にはなかった史上初の試みとして全国の小学生による投票により選定された。

- ・投票受付期間 (2017. 12. 11～ 2018. 2. 22)



➤小学生投票結果

- ・全国で16,769学校、205,755学級（小学校、特別支援学校小学部ほか）が投票に参加
栃木県内では363校が参加した

➤投票結果

- ・平成30（2018）年2月28日（水）マスコットが決定
- ・平成30（2018）年7月22日（日）マスコット名称が決定





※東京2020大会組織委員会ウェブサイトより転載

【ミライトワ】

「未来」と「永遠（とわ）」というふたつの言葉を結びつけて生まれました。名前に込められたのは、素晴らしい未来を永遠にという願い。東京2020大会を通じて、世界の人々の心に、希望に満ちた未来をいつまでも輝かせます。

【ソメイティ】

桜を代表する「ソメイヨシノ」と非常に力強いという意味の「so mighty」から生まれました。桜の触角を持ち、驚きの強さを見せるソメイティ。東京2020大会を通じて、桜を愛でる日本の心とパラリンピックアスリートの素晴らしさを印象づけます。

6 東京2020大会ボランティア

大会ボランティアは、東京2020組織委員会が運営主体となり、競技会場や選手村等の大会関係施設で競技運営サポート等の活動を行う者であり、平成30（2018）年9月21日から12月21日まで募集が行われた。活動分野は、「案内・競技・移動サポート・アテンド・運営サポート・ヘルスケア・テクノロジー・メディア・式典」の9つに大別される。

◎応募状況について

- ・ 応募登録数 204,680人（2019.1.19現在/募集人数：80,000人）
- ・ 男女比 男性36% 女性64%
- ・ 日本国籍64% 日本国籍以外36%



◎大会ボランティアのネーミング決定について

4つの候補案から、ボランティア応募者の投票により決定した。

- ・ 大会スタッフ・ボランティア：「Field Cast（フィールド・キャスト）」

※なお、この他に、東京都や競技会場所在自治体が運営主体となり、空港・主要駅・観光地などで観客や観光客の案内をする「都市ボランティア（シティ・キャスト）」がある。

7 カウントダウンイベント

東京2020カウントダウンイベントは、東京2020組織委員会が主催し、平成27（2015）年1月12日の「みんなのスタート！2020 Days to Tokyo 2020」を皮切りに、これまで12回開催されてきました。平成30（2018）年7月24日に開催された「みんなのTokyo 2020 2 Years to Go！（東京スカイツリータウン®）」では、多くのアスリートやオリンピック、東京2020マスコット「ミライトワ」と「ソメイティ」が参加し、地元の小学生らとともに開催まで2年の節目を祝いました。東京2020大会へ向けて、今後も複数回開催される予定です。



ミライトワとソメイティー登場



登壇したアスリート・オリンピック



ライトアップされた東京スカイツリー

8 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

- 日本全国の国民が参加し、東京2020大会で使用するメダルの製作を目的に小型家電の回収を行い、集まったものから抽出された金属でメダルの製作を行うプロジェクト
- オリンピック・パラリンピック合わせて金・銀・銅約5,000個のメダルを製作する予定
回収受付期間 ≪平成29（2017）年.4月～ 令和元（2019）年.春頃まで≫
金属の納入状況 金メダル（93.7%）銀メダル（85.4%）銅メダル（100%）
- メダルプロジェクトはオリンピック史上初の試み
栃木県ではすべての公立学校595校に回収箱を設置。
平成30（2018）年9月18日、宇都宮市立東小学校でキックオフイベントを実施した



小型家電回収ボックスの設置セレモニー

**都市鉱山からつくる！
みんなのメダル
プロジェクト**

あなたの携帯電話や小型家電がメダルに生まれ変わる！

みんなの思いが集まって
携帯電話やパソコン等
小型家電を全国各地で回収

東京2020メダリストへ
小型家電から抽出した
リサイクル金属でメダルを製作

資源をより活かす社会に
資源の有効活用をより重視する
さらに持続可能な社会へ

みんなの思いがこもったメダルを東京2020オリンピック・パラリンピックのアスリートに届けよう！